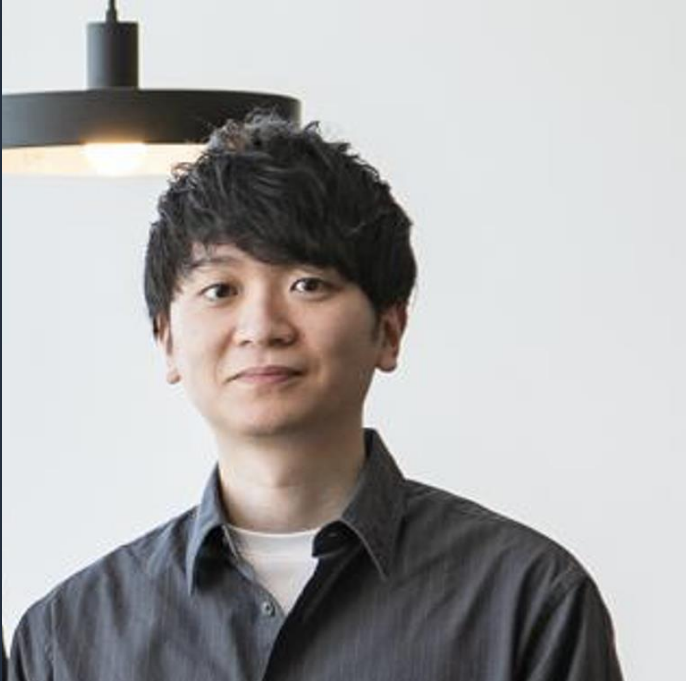




～スタートアップから学ぶ～ ビジネスを成長させる 賢いQuickSightの使い方

Kishida Kouki

Startup Solutions Architect



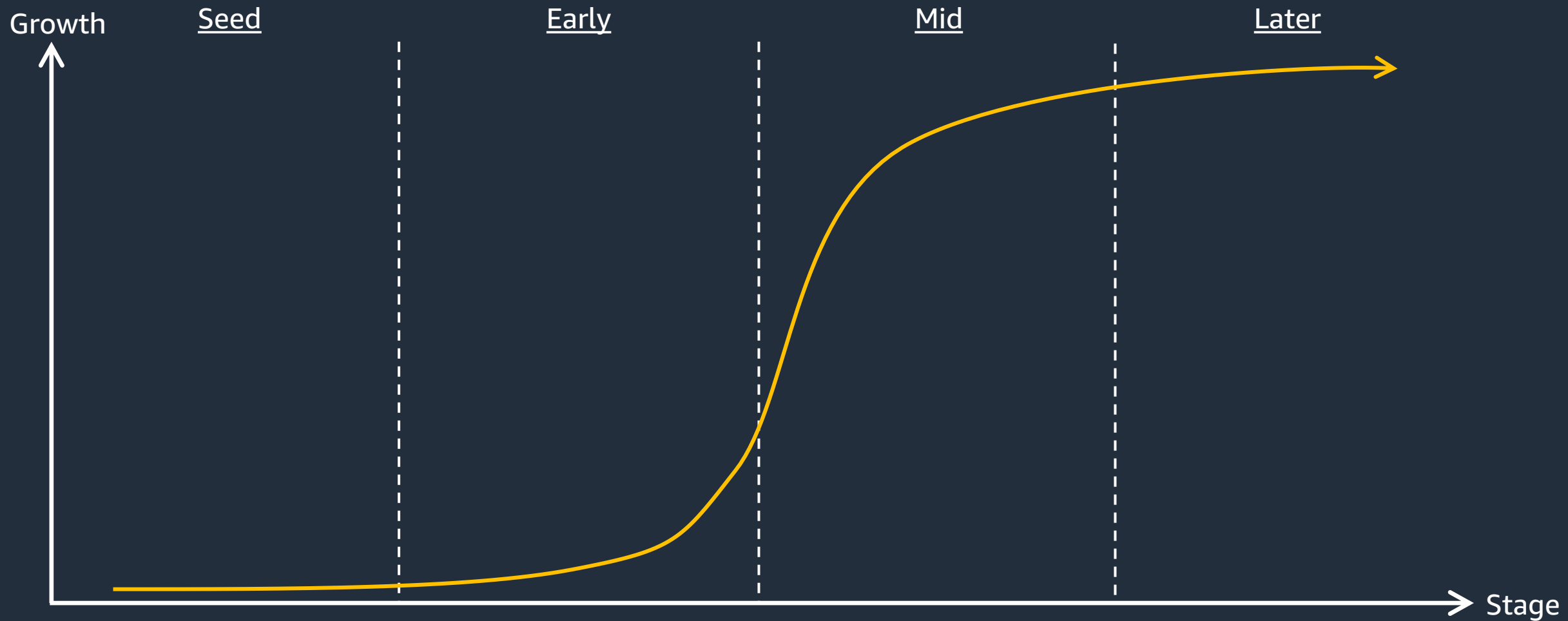
岸田 晃季 (Kishida Kouki)

スタートアップソリューションアーキテクト

前職ではスタートアップにMLエンジニアとして入社。機械学習に関わる研究開発やプロダクト開発に従事後、プロダクトマネージャーに転身。複数プロダクトの企画、品質管理などを経験。

現在はスタートアップの企業様の技術支援を担当。

スタートアップにおける QuickSightの必要性





初期のプロダクト開発における課題

「とにかく早く作りたい、お金もまだない」

いかに早く MVP を作るか

いかに早くフィードバックループを回すか

余計な工数はかけていけない

余計なコストもかけていけない

最低限のコストで手軽にKPIを評価する基盤が求められる

中期のプロダクト開発における課題

「フィードバックサイクルを安定化したい」

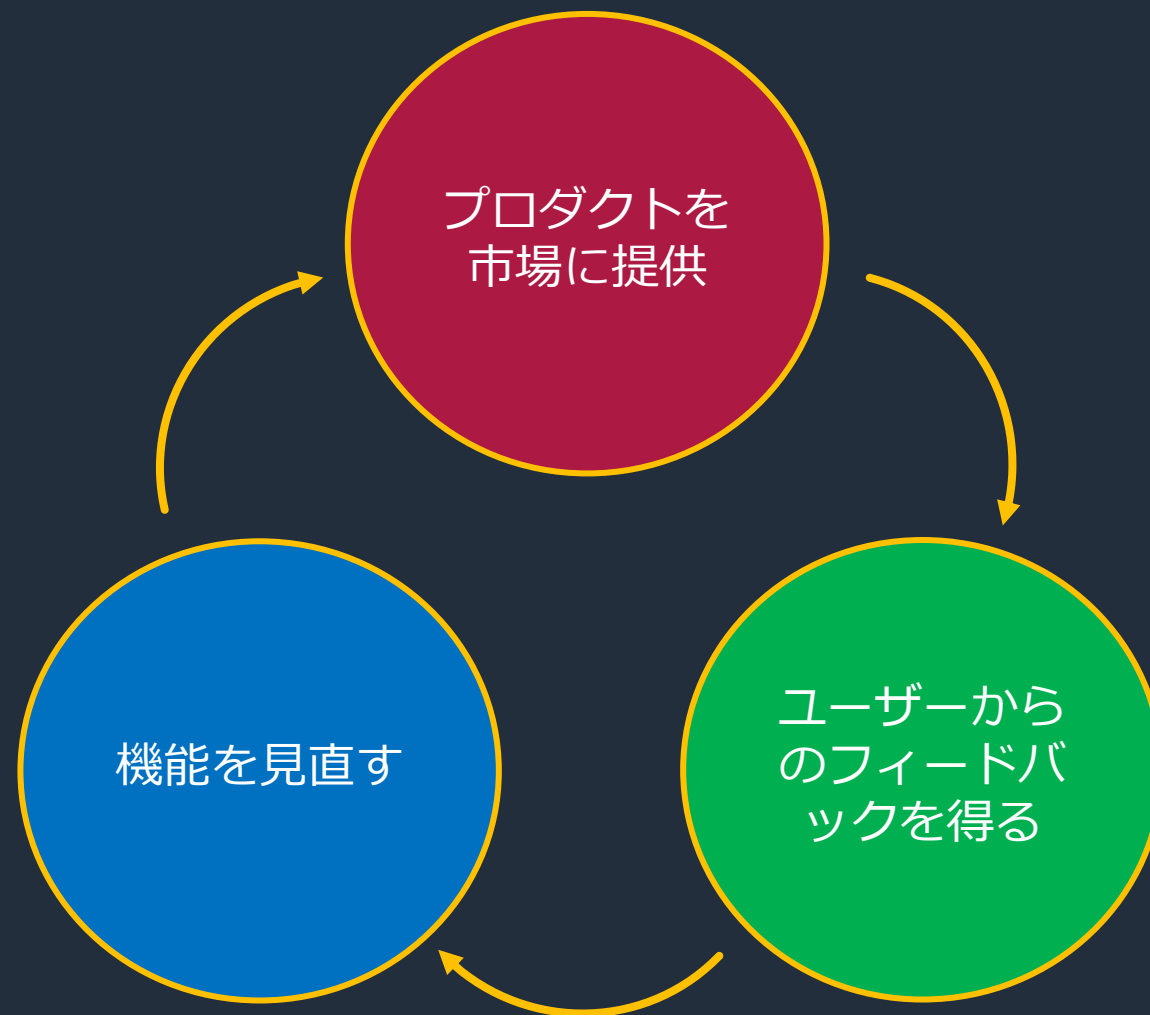
常にカスタマーの想いをバックログに取り込む

ユーザーがファンになるためのアイデアを数多く検証する

フィードバックサイクルの自動化・最適化を行う

**ユーザーをファンにする施策とフィードバックを
より効率よく回していかなければ行けない**

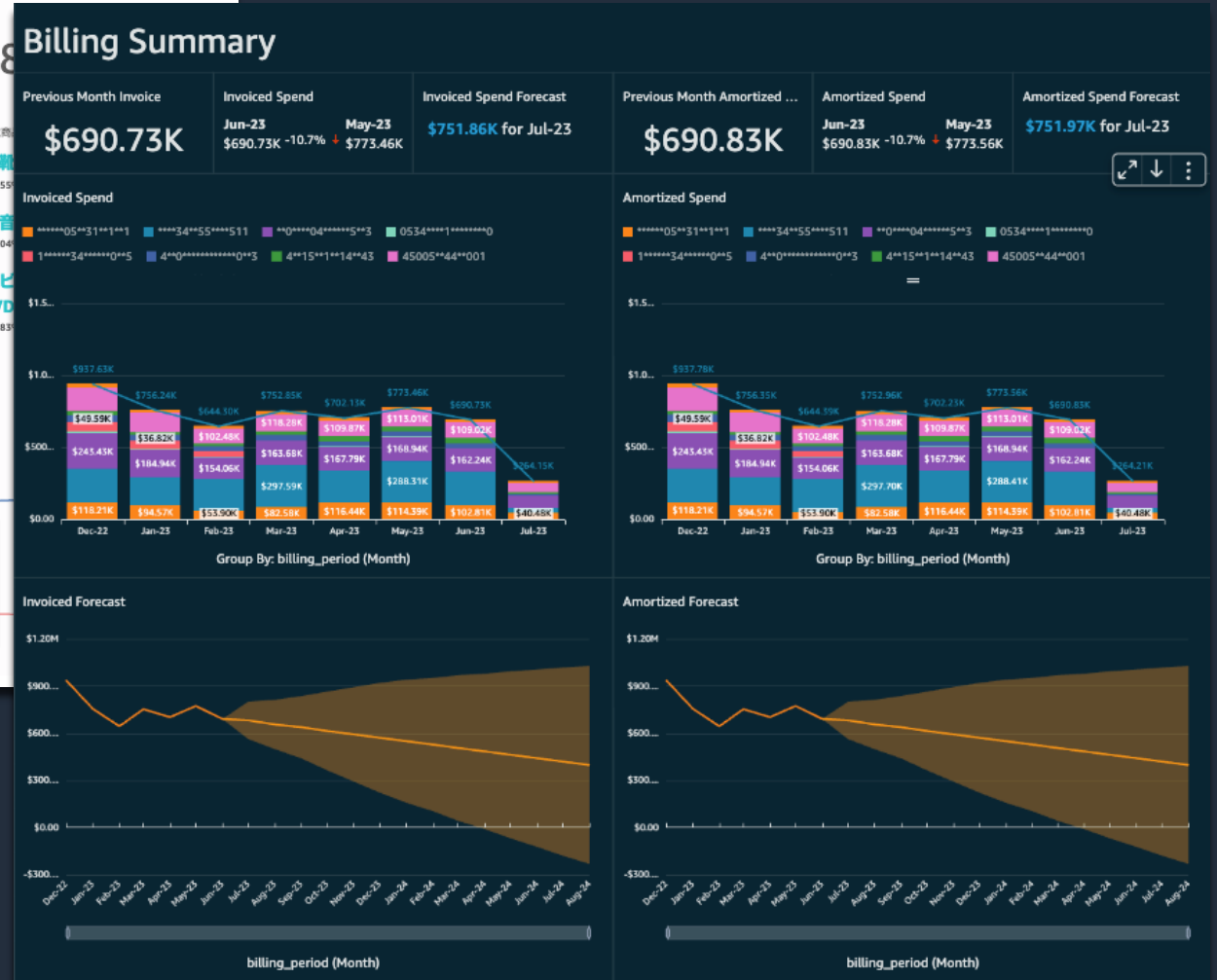
フィードバックサイクルを高速に回すことが大切



フィードバックサイクルを高速に回すことが大切



インタラクティブなダッシュボードでKPIを評価する



QuickSightであれば各フェーズに柔軟に対応できる

スタートアップにおける課題

QuickSightの利用ポイント

初期

- ・分析基盤がなくてもデータを手軽に評価したい
- ・エンジニアのリソースが避けないので構築にかかる工数は必要最低限にしたい

- ・様々なリソースに手軽に接続可能
- ・サーバーレスなので構築にかかる運用工数が削減

中期

- ・データ分析の専任者向けに柔軟なデータ分析基盤がほしい
- ・様々なデータソースを組み合わせる横断的な分析がしたい

- ・新たに構築したDWH基盤にも手軽に接続
- ・他AWSサービスを利用することで他SaaSからのデータも組み合わせる分析

後期

BtoBビジネスで規模が大きいクライアントの対応が必要になる

- ・行レベル/列レベルセキュリティや、SSOの機能を利用した柔軟なアクセス制御

初期フェーズの事例

分析基盤がない状態から気軽にBIツールを導入 社内のプロダクト評価プロセスを活発に

ユースケース

プロダクトデータを特定のKPIに沿って評価し、その状況を会社全体が確認できるようにしたい

課題

分析向けのデータ基盤がなく、分析の専任もいないためKPIを評価するしくみを手軽に作る必要があった

導入における効果

社内のメンバー全員がプロダクトのビジネス推移を確認でき、ビジネス的な視点で開発が活発に

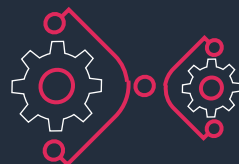
QuickSightでデータソースにアクセスするだけで BI基盤を構築

SPICEを利用して高速なデータクエリと既存データベースへの影響を抑える

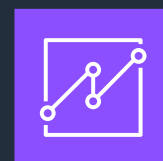
ユーザーの利用状況



Amazon Aurora



SPICE



Amazon QuickSight

カスタムビジュアルコンテンツで画像データを参照



画像データをホスティング

Amazon S3

接続する際には、画面上でそのまま接続することができ簡単にアクセスすることができる

中期フェーズの事例

データエンジニアが分析するための基盤を導入 Salesforceなどの営業データを組み合わせレポート化

ユースケース

- ・ Salesforceから営業データを取り入れ、より横断的なプロダクト分析を行いたい
- ・ 専任のデータ分析者を採用したので、データ分析基盤も作りたい

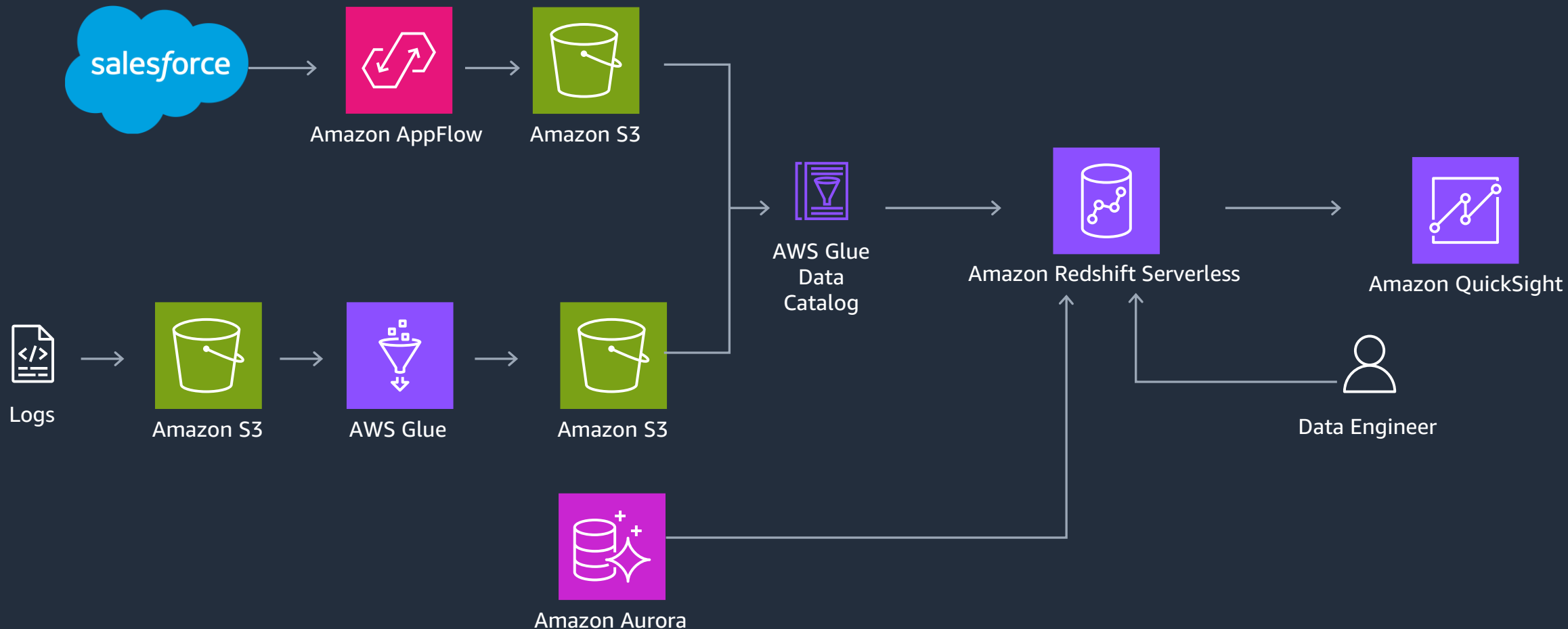
課題

- ・ 規模が大きくなるとBIツールの費用が高くなり、ユーザーが必要十分に払い出せない
- ・ 既存のBIツールと分析基盤の連携がしづらい

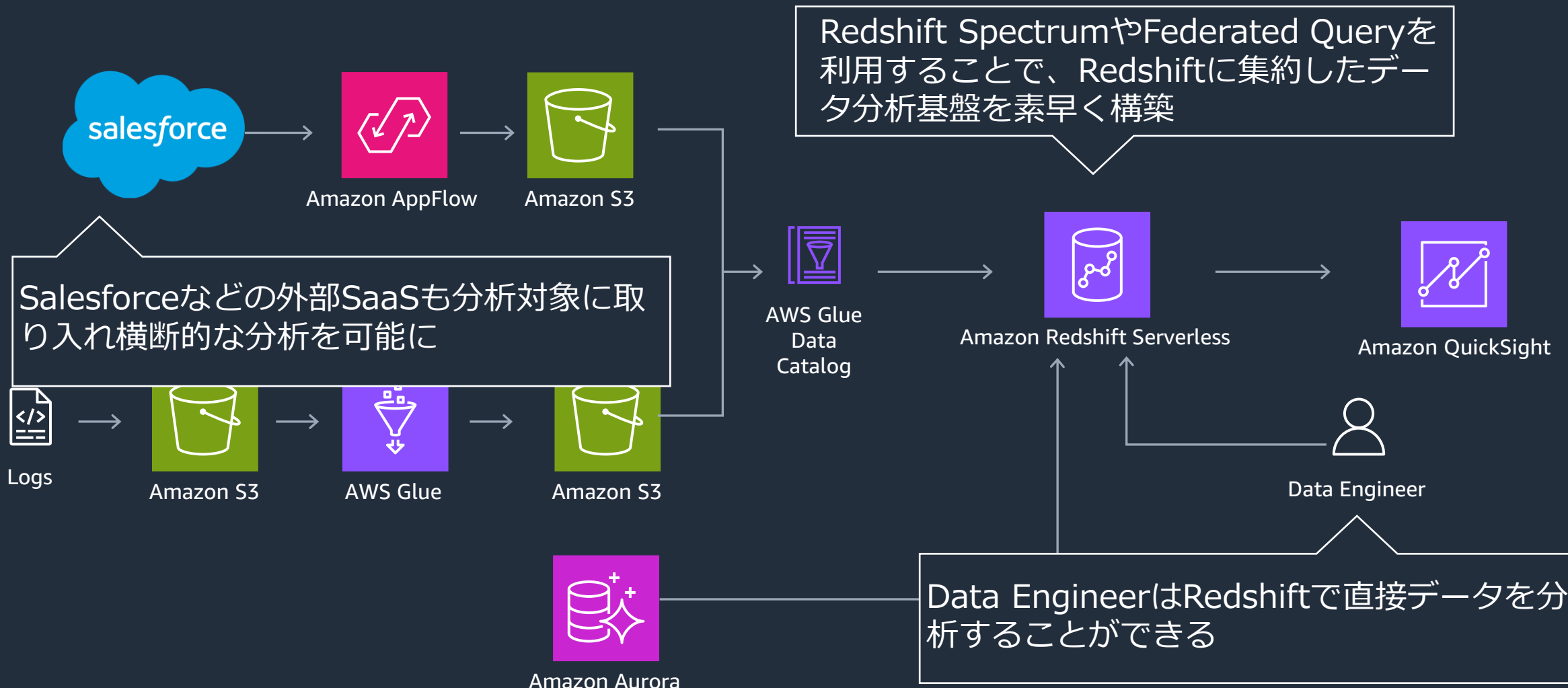
導入における効果

67%のコスト削減
他事業部に共有するレポートが150%に増加

Redshift Serverlessに集約し分析基盤を素早く構築



Redshift Serverlessに集約し分析基盤を素早く構築



料金もサブスクリプションではなくユーザー単位の従量課金で手軽に始められる

タイプ	Author 	Reader 	プランの解説
エンタープライズエディション (※1)	\$ 18 ユーザごと	\$0.3 ユーザーごとのセッション* 月最大で \$5 / ユーザごと	本番運用向けのプラン 以下を例とする機能を利用可能 ・行レベルセキュリティ ・グループ管理 ・Eメールレポート ・埋め込み ・フォルダ など

※1 別途個人利用向けのスタンダードエディションもありますが、企業利用の場合はエンタープライズエディションをご利用ください。

※上記以外にSPICEやレポート機能にも料金が発生します。

<https://aws.amazon.com/jp/quicksight/pricing/>

後期フェーズの事例

BtoB向けサービス向けに大規模データを取り扱うための アクセス制御機能を利用

ユースケース

大企業の顧客にデータ分析基盤を提供し各店舗ごとの需要計測にBI基盤を導入したい。適切な権限を付与した上で自身のデータ分析を行うためのBI基盤を提供したい

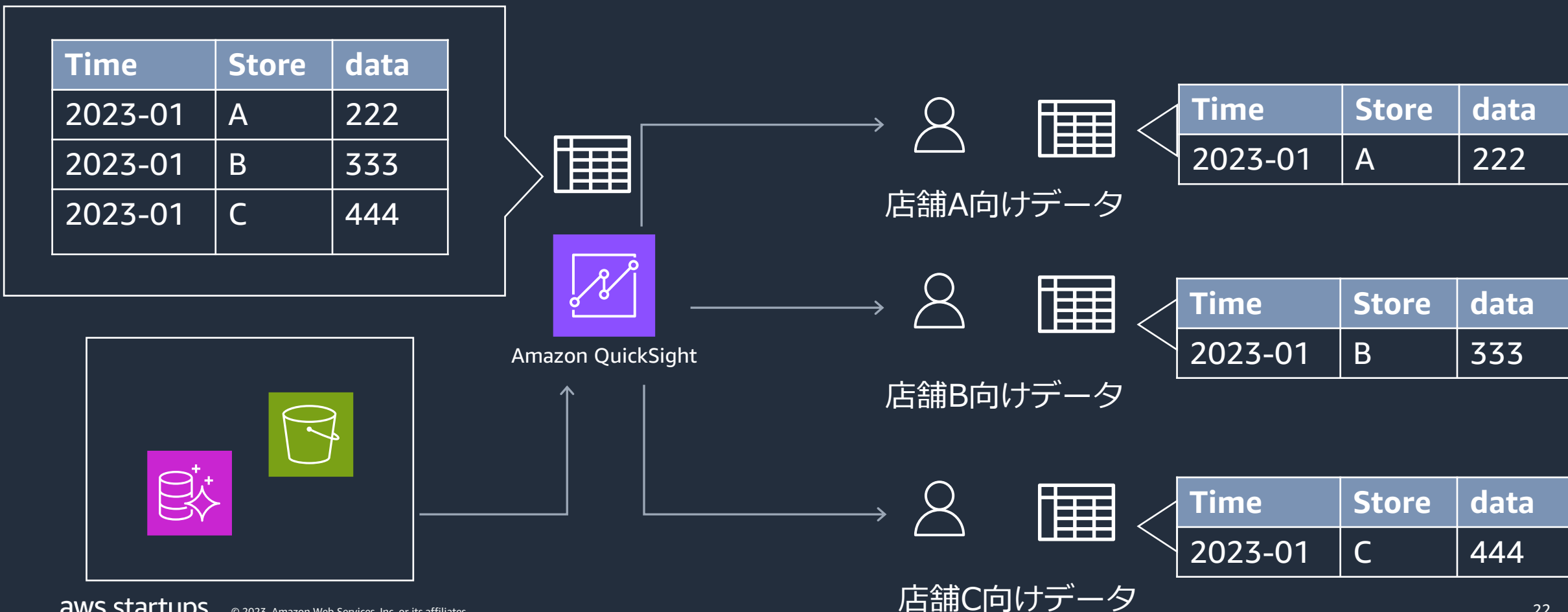
課題

規模の大きい顧客のため、大規模にも耐えうる認証基盤との連携や、データの細かいアクセス制御が求められる一方でセキュリティまわりの実装工数が避けない

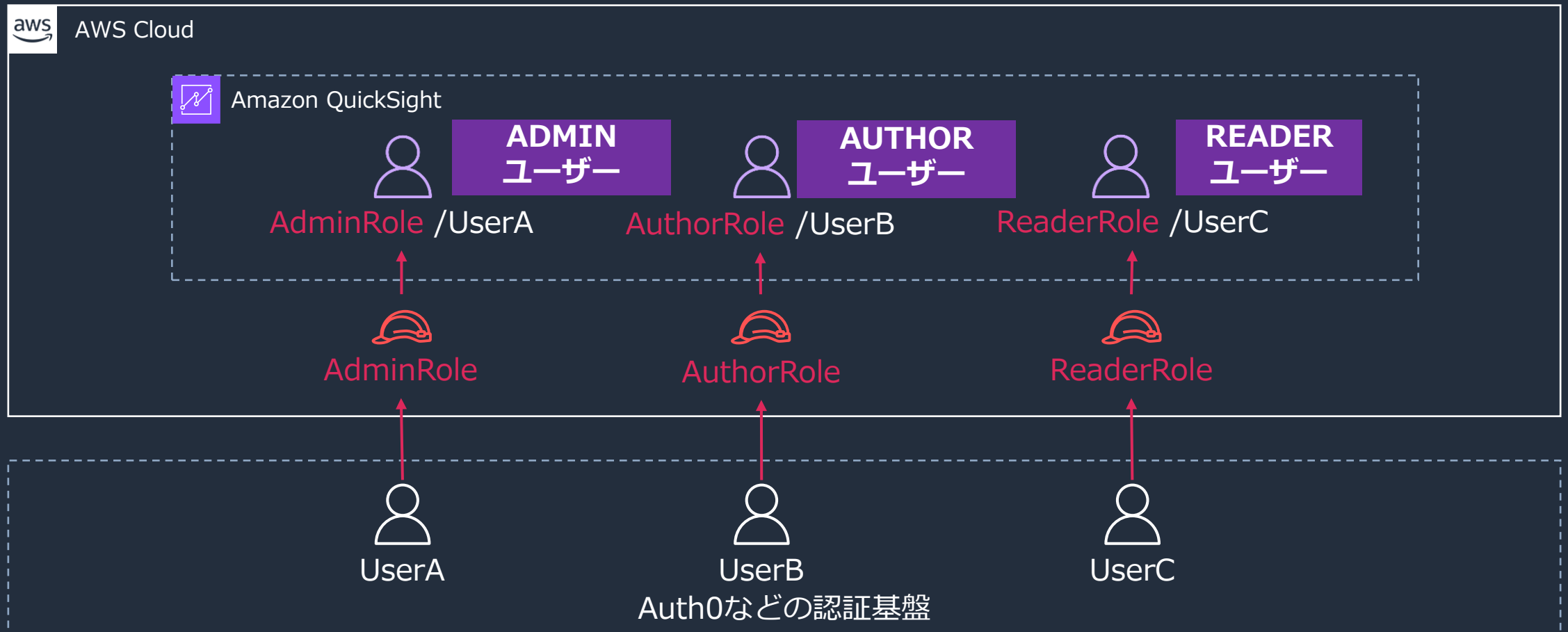
導入における効果

他会社と比較して80%のコスト削減
安全性を保ったまま本質的な機能開発に注力

安全なアクセス制御は行レベルセキュリティを利用して QuickSight に任せる



シングルサインオンの機能を用いてユーザーの認証基盤と QuickSight上のユーザーを簡単に連携



本日のまとめ

本日のまとめ

- スタートアップではビジネスを伸ばすために、データドリブンでのプロダクト分析が最重要である
- Amazon QuickSightはシンプルな構成から要件の複雑化に伴うデータ分析基盤の導入まであらゆるフェーズに対応する機能を備える
- サーバーレスかつユーザーごとの従量課金制である
Amazon QuickSightは小さくはじめるスタートアップにとって有用な選択肢の一つである



INNOVATE

ONLINE CONFERENCE

Data Edition



2023年8月30日(水)

データ活用のための基盤構築と最適化から、生成系 AI をはじめとした機械学習のビジネスへの応用まで データドリブンビジネス実践にむけたクラウド活用の手法を 16セッションでご紹介。

Every Application Edition



2023年9月1日(金)

顧客向けウェブサイト、基幹システム、生成系 AI といった新ワークロードを担うさまざまなシステムについて、AWS クラウド上での設計・構築の際のポイントや、テクノロジーの最新動向について16セッションでご紹介。

詳細およびご参加登録 >>

<https://aws.amazon.com/jp/events/aws-innovate/apj/>





Thank you!

Kouki Kishida

Startup Solutions Architect

koukish@amazon.co.jp